

第15号
定価 1500yen

MAR. 3月号
2008 no.01!

With Mechanical Majesty
クロノス日本版

Chronos

www.webchronos.net

The Positive and Negative Aspects of Transparent Watches

トランスパレントウォッチの 功罪



本誌編集長が審査員として参加
ジュネーブ・ウォッチ・メイキング・
グランプリ2007を総括する

規定強化評決で揺れ動く
メイド・イン・スイスの定義

新作時計のトピックを凝縮
新鋭 —Watch the New—

TEST

ROLEX
OYSTER PERPETUAL YACHT-MASTER II

CARTIER
SANTOS 100 CHRONOGRAPH

NOMOS
CLUB WATCH

ストラップ

Strap (英) / Lanyard (日)

ベルトとも。時計を留める道具。革ベルトが主流で、主な素材にはクロコダイル、リザード、オーストリッチ、カーフ、スネーク、シャークスキン、ビッグスキン、コードバンなどがある。いくつもの仕立て方があるが、最も高級なのがへり返し仕立て。表革で芯材を包むように作る。耐久性に優れ高級感にも富むが、コストが高くなる。逆に裏材で芯材を包むように作るのが、フランス仕立て。中級のベルトに見られる手法である。天然素材の高騰を踏まえてか、近年ではナイロンやカーボン、ラバーなどの人工素材をストラップに使う例も増えている。なお最近のラバーベルトはシリコンの含有量を増やし、柔らかい装着感に特徴がある。



スーパーミノヴァ

Super Lumova (英)

【塗料】
蓄光塗料の一種。N夜光とも。根本夜光の開発商品。自発光する今までの塗料に対し、外部からの光を吸収して発光する。代表的な自発光塗料であるトリチウムと比較した場合、残光時間と輝度が10倍以上高く、照度500ルクスの光を10分間吸収しただけで、3〜5時間発光する能力を持つ。また、衝撃で剥落しにくい。塗料の色調を変えることも可能。放射性塗料であるトリチウムの代替品として、日本では97年前後に採用が始まった。スイスの時計メーカーも2000年前後から採用。現在ほとんどの夜光塗料がスーパーミノヴァである。

スピーク・マリノ

Speake Marin (ブランド)

2000年創業の時計メーカー。創業者は独立時計師のピーター・スピーク・マリノ(1968年〜)。スイスの時計学校を卒業後、母国イギリスでアンティークの修復に従事。ルノー・エ・パビで複雑時計の製作を担当した後、2000年に独立。19世紀のイギリス製懐中時計を範に取った端正なデザインに、太いラグを合わせた個性的な意匠で知られる。05年にはハリ・ウィンストンと共同でトゥールビヨンを開発(ベースは旧STT社製)。一躍名声を高めた。07年には加賀時給職人として高名な山崎夢舟氏とコラボレーション。「スピーク・マリノ」蒔絵シリーズを発表した。代表作は「ピカデリー」(00年など)。



「ピカデリー」

スプリットセコンド

Split second (英) / Rattrapante (仏)

【機構】
割針とも。ふたつの針で時間計測可能なクロノグラフのこと。ふたつの針をコントロールするため技術的に複雑で、とりわけベースの小さな自動巻きクロノグラフとの併用は難しい。1831年には原型があったとされるが、完全な形が実現されたのは81年で、時計師のオーガスト・ボーが作ったといわれる。腕時計初のスプリットセコンドは1912年だが、これは懐中時計を転用したものであった。簡易なスプリットセコンドとして知られるのは36年のボヴェ、49年のダービー&シャルデンブラン、51年のランデロン。世界初の自動巻きスプリットセコンドは、87年のフレデリック・ビゲ1186。A.ランゲ&ゾーネのダブルスプリット(2005年)はクロノグラフ針だけでなく、30分積算針も2本に増やし、分単位で複数時間の計測を可能にした。

スプリングドライブ

Spring drive (機構)

電子制御式機械式ムーブメントのこと。セイコーエプソンが開発。輪列自体はゼンマイで駆動するが、調速はクォーツで行うという、両者のメリットを併せ持った「第3のムーブメント」。具体的には、輪列がローターを回転させて、コイルで電気エネルギーに変換。そのエネルギーでクォーツとICを駆動し、ローターの回転を制御する。1978年に特許出願、82年には開発がスタート。99年に商品化され、2007年にはクロノグラフが加わった。クォーツ並みの月差±15秒以内という高精度を持つが、機械式時計同様の強いトルクを持ち、クォーツでは難しい太い針を駆動できる。またICからローターへの制御信号は8Hzしかないが、ICで完全に制御されるため、機械式時計のように外乱の影響で精度が悪化することはない。加えてローターの回転を電子的に制御するため、完全なスイーブ運動を実現した。

滑りバネ

Sliding spring (英) / Ressort de friction (仏)

【パーツ】
主ゼンマイに取り付けられた部品のひとつ。香箱の中をスリッパさせるもの。ゼンマイの巻きすぎを防止し、ゼンマイ切れやトルクが強くなりすぎること避ける。1867年、パテック・フィリップが特許を取得。自動巻きの発明にあわせて普及した。現在ほとんどの自動巻きが、滑りバネを備えた主ゼンマイを持っている。ただし滑りバネが滑りすぎるとトルクが落ち、滑らないとトルクが強すぎると調整は難しい。自動巻きの手で巻くときはパチパチ音がするが、これは滑りバネが香箱の中で滑っている状態。

スモーステンブ

Smooth balance (英)

【パーツ】
チラネジのないテンブのこと。腕時計に高精度が求められるはじめた1950年代以降に広く普及した。仮にチラネジ付き/なしのテンブが同重量の場合、後者はよりテン

ブの直径を拡大できる。そのため理論上、テンブの慣性モーメントは約10%増加し、時計の精度は大きく向上する。チラネジがないためテンブの片重りを取りにくいのが、部品の加工精度が向上した現在、片重りを取る必要はさほどない。またテンブ上に突起物がないため空気抵抗が小さい。そのため現在のハイビート機は大半がスモーステンブを採用する。

スモールセコンド

Small second (英)

【機構】
インダイアルで表示した秒針のこと。1分間で1回転する。4番車の位置により、主に6時と9時位置に分かれる。古典的手法のため時計愛好家に好まれる意匠のひとつ。現在はほとんどのムーブメントが4番車をムーブメントの中心に置くため、スモールセコンドは珍しくなった。現在ある多くのスモールセコンドは、文字盤側に付加モジュールを加えて、センタースセコンドをスモールセコンド化している。その代表例がETA 2895とジャガー・ルクルトの889。なおかつての高級機は、秒針の視認性を高めるため、できるだけ大きなスモールセコンドを採用していた。



セイコー

Seiko (英)

【ブランド】

日本の総合精密機器メーカー。持ち株会社のセイコーホールディングス株式会社(旧セイコー株式会社)のもと、腕時計部門をセイコーオプティクス株式会社(現腕時計の製造を行うのは、セイコーインスツルとセイコーエプソンの2社。それぞれ、岩手県寒石と長野県塩尻に、ムーブメントから完成品に至るまで自社で一貫して腕時計を作る工房を持つ。1881年、服部時計店創業。92年には時計製造部門の精工舎創業。